
霊学園

チュンチュン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

霊学園

【Nコード】

N6318A

【作者名】

チュンチュン

【あらすじ】

当学園への入学条件は次の要項を満たす者。1・霊が見える2・霊と会話ができる

第1話「獣道」(前書き)

なるべく飽きないように書きますが、未熟者なので文章が変な箇所もあると思います。不快に感じるかもしれませんが、読んで下さったら嬉しいです。

第1話「獣道」

世界各国に1校は必ず有ると言う霊能力者のための学校………ここ日本にもある。その名も日本真霊学園。

俺の名前は、木曾義隆^{きそによしたか}15歳だ。(なんで、自己紹介してんだろ?)俺は今、親父も行っていたと言う日本真霊学園にむかっているのが学園から一番近いバス停で降りた。(実況までしてるし。)地図を見ると、ここからは徒歩らしい。

「それにしても、田舎だな。」

そう目の前は、田畑が広がっている、その後は大きな山が幾つも連なっていた。「嘘だろ!?!あの山の中に入っていくのか?」

慌てて地図を見直す……山に入ることに決定。仕方なく入ることにする。

「これが道なのか?」

目の前にある道は、アスワルトで整備された道でなく人が1人通るくらいの獣道。9時までに着く約束だったが、現時刻8時。間に合うのか?「キツ過ぎる、こんな所に学校つくった奴は絶対にサデイストだな。」

と愚痴を言いつつ1時間半近く登っていた。しかも9時に間にあつてないし。

「ん?なんだあれ。看板か?」

こんな所に看板があるとは?と思いつつ、読んで見る。【これより先は日本真霊学園校区。関係者以外立ち入り禁止!猛獣に注意!!】はあ、やっと校区まで来たんだ。つーか、猛獣ってなんなんだよ。ああ駄目だ、歩き疲れてあんまり考える事が出来ない。まあ、いいやとりあえず歩こう。

「ヒィイギヤアアア〜！」

あ、なんか今悲鳴がきこえたなあ。悲鳴？……悲鳴！おい、マジかよ。たかが学校に行くのに獣に襲われるって何なんだよ。聞いてねーよ。しかも、ガサガサ何か近付いて来てるし逃げるしかねーだろ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6318a/>

霊学園

2010年10月26日05時06分発行